

生活と政治をつなぐ情報紙

生活者通信

東京・生活者ネットワーク

No.269

2014.2.1

※毎月1回1日発行
※1994年5月23日第三種郵便物認可

首都圏から中京圏、近畿圏を結ぶ JR 東海によるリニア中央新幹線計画（総事業費 9 兆 300 億円）が本格化の様相を呈している。しかし 2011 年秋以降、沿線各地で開かれた説明会では、電力浪費、自然破壊、採算性、電磁波公害のいずれをとっても正当性は見いだせず多くの市民が危機感を募らせている。この間、予定ルートに含まれている町田では、町田・生活者ネットワークと市民有志による学習会を継続開催。広く市民にリニア計画の現状と問題を訴えてきた。

町田・生活者ネットワーク市議会議員 ●わたべ 眞実



街頭で議会報告に立つ、町田・生活者ネットワークの市議会議員わたべ眞実(左)と、政策委員の田中のりこ

■発行 東京・生活者ネットワーク
■〒160-0021
東京都新宿区歌舞伎町2-19-13 ASKビル5階
TEL03-3200-9189 FAX03-3200-9274
■Eメール tokyo@seikatsusha.net
■ホームページ http://www.seikatsusha.me
■発行責任者 西崎光子
■定価 年間1000円・1部100円
■郵便振替口座 00130-3-18417

都 1月23日告示、2月9日投票で東京都知事選挙、都議会第1回定例会の開催、2月26日～3月28日。

ネット ●日野 2月9日(日)告示、16日(日)投票の日野市議選に、新人の吉岡なつえを擁立予定
●町田 2月16日(日)告示、23日(日)投票の町田市議選に、現職わたべ眞実と新人の田中のりこを擁立予定
●青梅 認知症サポーター(オレンジバンド)養成講座 2月14日(金)10:00～ 青梅市福祉センター2階会議室 教材費100円 主催:青梅地域協議会
●品川 洗剤調査報告&学習会「子どもの健康を守る洗剤選び」2月15日(土)14:00～ 荏原第五区民集会所3階集会所 講師:里見宏さん(健康情報研究センター代表) 参加費500円 主催:品川地域協議会
●武蔵野 脱原発と平和を求める武蔵野市民デモ 2月16日(日)13:30～ 吉祥寺西公園集合
●豊島 村上のり子とおしゃべりタイム～区政報告会 3月1日(土)10:30～ 豊島・生活者ネットワーク事務所

町田の地下にもリニアが通る?!

電力消費、自然破壊、電磁波公害……疑問だらけのリニア中央新幹線計画

そもそも、リニア中央新幹線とは

「時速500kmで東京(品川)―名古屋間を40分、東京(品川)―大阪間を1時間で結ぶ」とするリニア中央新幹線の本格工事が始まるようとしている。品川駅地下を起点とし、JR橋本駅付近、甲府市大津町付近、飯田市上郷飯沼付近、中津川市千旦林付近を中間駅に名古屋駅地下に至る全長286kmの行程で27年開業。45年には大阪への延伸、開業をめざすとしている。

予定ルートに町田市も含まれており、12年度よりボーリングによる地質調査が開始した。計画によると地下40mのところを通り、ルート上には直径30mの巨大な立坑が5～10kmおきに造られることになる。

11年には、沿線住民への説明会とともに自治体への説明が行われ、町田市議会でも説明を受けたが、しかし、膨大な電力消費、電磁波問題、環境破壊、安全性

などの懸念に、JR東海の説明はあまりにも不十分である。

ストップ!リニア 沿線住民の動き

この事態に環境影響評価方法書の公告が開始された11年秋以降、計画沿線の各地でリニア問題を考える市民の動きが活発化。

12年4月には「東京・神奈川連絡会」が発足(筆者(わたべ)も会員として参加)。同年9月には東京から名古屋までの沿線住民が集う会が甲府市で初めて開かれ、13年2月の「リニア新幹線沿線住民ネットワーク」結成集会へとつなげ、同年12月の「エネルギー問題としてのリニア新幹線―脱原発社会に膨大な電力を使う『超特急』に未来はあるか?」では、産業技術総合研究所首席評価役の阿部修二さんが個人の立場で登壇された。

講演で阿部さんは、JRの公表数値などをもとにリニア走行の消費電力量などを予測

測。乗客1人当たりの消費電力量は、既存の新幹線と同じ時速300kmで走ると約2倍、同500kmで走行した場合は300kmで走る新幹線の3.5倍となる試算を示し、リニアのエネルギー効率の悪さを指摘。福島原発事故後、省エネ・電力のグリーン化への社会的要請が高まる中、リニアは「時代の流れに逆行する」と断罪した。

先駆ける9月の集會では、実験線が地上を走る甲府市から「景観的にも負担、急速に住民の問題意識が高まっている」状況が、南アルプスの下を掘りぬく計画に長野県の地質学者は「登山道の崩落が現在進行中であり深層部でも同様」であること。岐阜県では予定ルートにウラン鉱床が存在することから、「掘削により生じる新たな被曝問題を危惧」する発表があった。

JRリニアの是非が明らかになく、トンネルを掘る前に計画の白紙撤回を求める行動をおおぜいの市民とともに進めたい。

あんでな

笹の墓標―強制連行・強制労働犠牲者の遺骨を掘る 殿平 善彦

北海道北部の山中、幌加内町朱鞠内(しゅまりない)に巨大な人造湖がある。戦時下に建設された「雨竜ダム」である。1938年から43年まで、数千人の労働者が建設に従事し、200人以上の死者が出た。日本人タコ部屋労働者と朝鮮半島から連行された若者が犠牲になった。

1997年から始まった「東アジア共同ワークショップ」に集う日本、韓国、在日コリアン、アイヌなどの若者たちは、朱鞠内の共同墓地の奥に眠る犠牲者の遺骨を発掘し、追悼し、遺族へ返そうとする運動に取り組んだ。

東アジアに住む私たちは近代の歴史の相克の中にいる。戦争と植民地支配は、人々に大きな傷を残した。ア

シア太平洋戦争から70年近く経つのに、歴史和解は不可能に見える。靖国神社に参拝する安倍総理大臣は国家のエゴイズムを隠そうとさえしない。為政者に和解を期待できないなら、市民の手で進めるしかない。もともと仲良くするのは人であって、権力ではない。

ワークショップに集う若者たちは、国境を超えて集い続け、相互理解を求めて留学し、就職し、恋愛し、結婚した。ゆるぎない人のつながりは、国家のエゴイズムを超える。16年間の若者たちの葛藤と友情の記録が、映画「笹の墓標」(全5章・9時間9分)に結実した。ご覧いただきたい(<http://sasanobohyo.blogspot.jp/>)。今年も冬の朱鞠内に集うワークショップが2月15日～16日に計画されている。参加も可能だ。連絡をくだされば詳細をお伝えできる(tompei@cocoa.ocn.ne.jp)。

【強制連行・強制労働犠牲者を考える北海道フォーラム共同代表】



写真は、遺骨発掘に取りくむ若者たち、2012年夏(上/右下)。冬の雨竜ダム第一堰堤(左下)